

(2) 授業改善に向けて教師が意識する3つのポイント

平成26年度及び平成27年度の「佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕結果報告」<sup>(1)(2)</sup>に示される授業改善のポイントと「研究委員会で行った児童の実態調査の分析結果」を基に、授業づくりにおいて「授業改善に向けて教師が意識すること」を視点にして整理すると、次の3つのポイントが重要になります。

- ① 児童が単元を通して考え、理解することを明確にする。
- ② 児童の主体的な学びになるようにする。
- ③ 年間を通して、授業改善の基盤をつくるようにする。

① 児童が単元を通して考え、理解することを明確にする。

社会科の授業は、「児童が単元を通して考え、理解する」という長いスパンでの計画的な指導が大切になります。そのためには、単元の目標の達成を目指した単元の指導計画が重要です。

まずは、図1のような単元の指導計画を次のアからエの手順で作成しましょう。

単元の指導計画																											
<b>単元名</b> 第6学年 「町人の文化と新しく生まれた学問」(全6時間)[東京書籍6年上]																											
<b>単元の目標</b> 江戸時代に生まれた文化や学問に関心をもち、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について資料を活用して調べ、江戸時代を代表する文化や学問に、 <b>単元の目標</b> 社会が安定するにつれて、町人文化や、蘭学や国学といった新しい学問が、 <b>単元の目標</b> に関わる人物の働きが理解できるようにする。																											
<b>学習指導要領の内容</b> 「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学が起ったことが分かること」 <b>ア 学習指導要領の内容</b>																											
単元の評価規準																											
<b>社会的事象への関心・意欲・態度【関】</b> 江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物に関心をもち、それを意欲的に調べている。 江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物について、人物の業績や働き、特徴を比較し、江戸時代を代表する分野を考えようとしている。	<b>社会的な思考・判断・表現【思】</b> 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について、学習問題や予想、文章表現して、江戸時代の文化や学問に関わる人物の業績や働き、特徴を比較して、お勧めする分野を考え適切に表現している。	<b>観察・資料活用の技能【技】</b> 地図や年表、その他の資料を活用して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について必要な情報を集め、読み取っている。 調べたことをワークシートにまとめている。	<b>社会的事象についての知識・理解【知】</b> 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績を理解している。 社会が安定するにつれて、町人文化が栄え、新しい学問が起ったこと、こうした文化や学問が当時の人々や後世に影響を与えたことを理解している。																								
単元の構造(全6時間)																											
江戸時代の文化の確認(今につながる和風文化)(武士や貴族が中心)(中国の学問)																											
(第1時)江戸時代の文化や学問について学習問題をつくろう。 (学習問題Ⅰ)江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろう。 [知識や概念の習得]																											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>分類</th> <th>「誰が」</th> <th>「業績(したこと)」</th> <th>「特徴」</th> </tr> <tr> <td>文化</td> <td>近松門左衛門 歌川広重</td> <td>歌舞伎や人形浄瑠璃 浮世絵</td> <td>江戸時代の文化は「町人」が中心 多くの人や世界の文化に影響した</td> </tr> </table>	分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」	文化	近松門左衛門 歌川広重	歌舞伎や人形浄瑠璃 浮世絵	江戸時代の文化は「町人」が中心 多くの人や世界の文化に影響した	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>分類</th> <th>「誰が」</th> <th>「業績(したこと)」</th> <th>「特徴」</th> </tr> <tr> <td>蘭学</td> <td>伊能忠敏 杉田玄白</td> <td>正確な天竺図 解体新書</td> <td>ヨーロッパの新しい学問 現在でも使われる技術</td> </tr> </table>	分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」	蘭学	伊能忠敏 杉田玄白	正確な天竺図 解体新書	ヨーロッパの新しい学問 現在でも使われる技術	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>分類</th> <th>「誰が」</th> <th>「業績(したこと)」</th> <th>「特徴」</th> </tr> <tr> <td>国学</td> <td>本居宣長</td> <td>古事記伝</td> <td>日本古来の考え方 社会や政治に対する批判的な動き</td> </tr> </table>	分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」	国学	本居宣長	古事記伝	日本古来の考え方 社会や政治に対する批判的な動き	
分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」																								
文化	近松門左衛門 歌川広重	歌舞伎や人形浄瑠璃 浮世絵	江戸時代の文化は「町人」が中心 多くの人や世界の文化に影響した																								
分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」																								
蘭学	伊能忠敏 杉田玄白	正確な天竺図 解体新書	ヨーロッパの新しい学問 現在でも使われる技術																								
分類	「誰が」	「業績(したこと)」	「特徴」																								
国学	本居宣長	古事記伝	日本古来の考え方 社会や政治に対する批判的な動き																								
(第3時)江戸時代に生まれた学問(蘭学)を調べよう。																											
(第4時)江戸時代に生まれた学問(国学)を調べよう。 ※時代背景 大塩平八郎の乱(庶民の不安・不満)																											
(第5時)学習問題Ⅰをまとめよう。																											
(学習問題Ⅱ)江戸時代を代表する文化や学問を考えよう。[知識の活用・定着]																											
(第6時)討論会をして、「江戸時代を代表する文化や学問」について考えよう。 《討論の視点》「影響を与えた人」「努力や苦労」「現在への影響」 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起ったことが分かる。																											

**ア** 学習指導要領の目標、内容を確認する。

**イ** 単元の目標を具体的に設定する。  
(目指す児童の姿の明確化)

**ウ** 単元の評価規準を設定する。  
(児童の学習状況を判断する際の目安の明確化)

**エ** 単元の構造化  
(児童の思考の流れの想定)

図1 単元の指導計画例(【実践事例4】より)

## ア 学習指導要領の目標、内容を確認しましょう。

児童が単元を通して何について考え、何を理解するのかを明確にするためには、学習指導要領の目標、内容に照らして、次の4つの事項を明らかにしましょう。4つの事項の内容については、小学校学習指導要領解説社会編の第3章に、各学年ごとに示されています。

### 単元の目標を具体化する4つの事項

- ・児童が「①調べて分かる社会の内容」は何か。
- ・児童が「②どのような調べ方をして」調べるか。
- ・児童が「③考えて分かる社会の内容」は何か。
- ・児童が「④どのような考え方をして」考えるか。

例えば、第5学年の小単元「これからの食料生産とわたしたち」[東京書籍5年上]の場合、学習指導要領の第5学年の内容(2)<sup>③</sup>に照らし合わせると、次のように示されています。

(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを調べるようにする。

ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。

文部科学省 「小学校学習指導要領」 平成20年3月 p.25より引用  
※下線及び①から③は、本研究委員会による。

## イ 単元の目標を具体的に設定しましょう。

単元で取り上げる内容について、「①調べて分かる社会の内容」と「③調べたことから考えて分かる社会の内容」とに分けてみると考えさせる内容が見えてきます。

「③考えて分かる社会の内容」が、社会的事象の特色や相互の関連、意味であり、考えさせる内容に当たります。また、児童が、「④どのような考え方をして」考えるかについては、「③考えて分かる社会の内容」を考慮することができるように、教師が設定する必要があります。考え方としては、比較、関連付け、総合、予想（推測）などが考えられます。

学習指導案等に示す際には、次の文例に当てはめることで具体的な単元の目標になります。

### 単元の目標設定文例

- ・「(①調べて分かる社会の内容)について、(②どのような調べ方)を通して調べ、(③考えて分かる社会の内容)を(④どのような考え方をして)考えるようにする。」
- ・「〇〇に関心をもち、〇〇について、(②どのような調べ方)を活用して調べ、(①調べて分かる社会の内容)が分かり、(④どのような考え方をして)(③考えて分かる社会の内容)を調べるようにする。」

○地域の販売の仕事について、スーパーマーケットで働く人々の様子を見学したり、聞き取り調査をしたりして調べ、地域の販売に関する仕事自分たちの生活を支えていることや販売されている商品を通して他地域と関わっていることが分かり、販売の仕事をする人が消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを考えるようにする。

資料1 単元の目標例（【実践事例1】の一部）

**ウ 単元の評価規準を設定しましょう。**

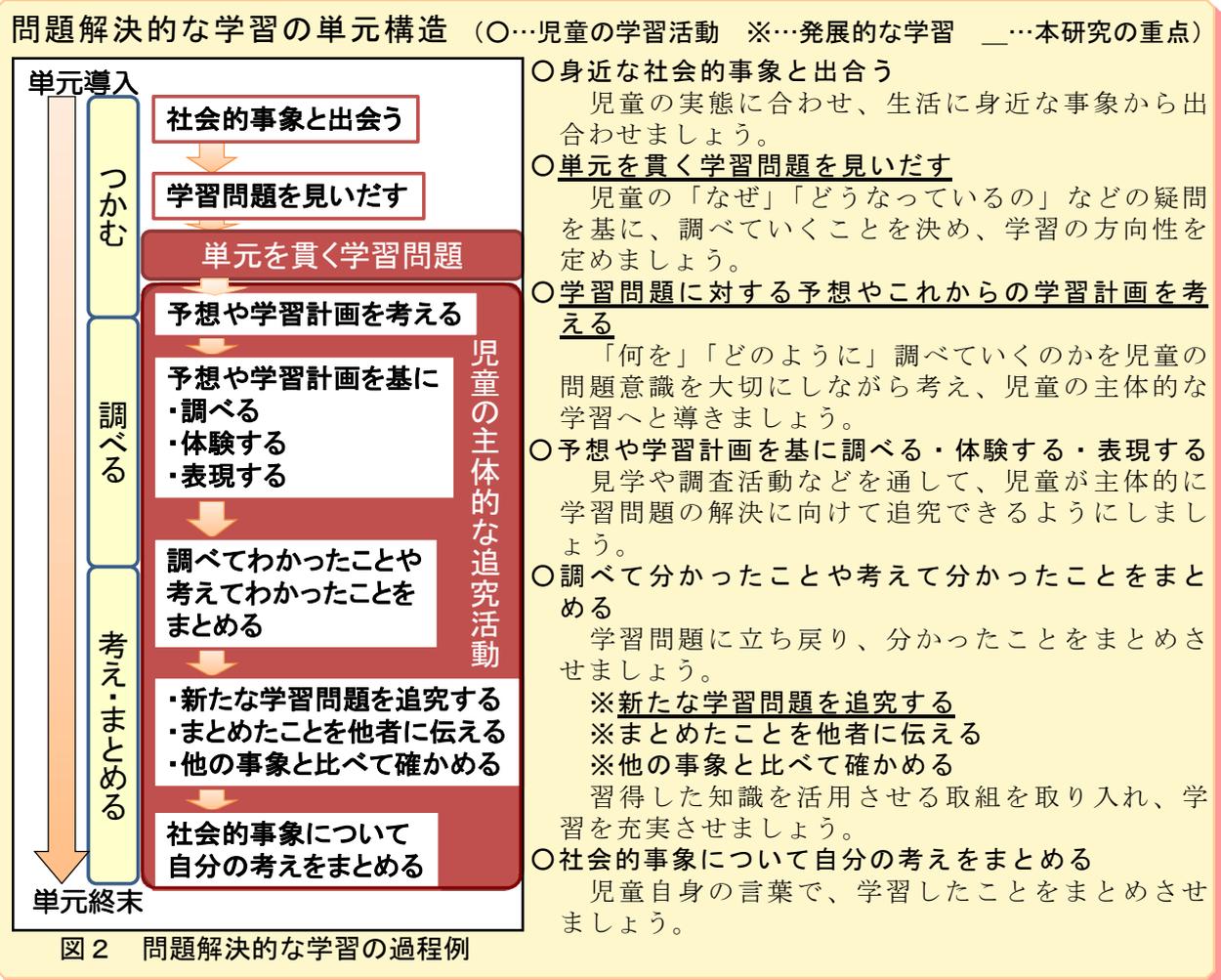
単元の評価規準は、児童一人一人の学習状況や単元の目標の実現状況を適確に判断し、学習指導の改善に生かすために次のように設定します。

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
・（単元で取り上げる社会的事象）について関心をもち、意欲的に調べている。 ・（※これからのよりよい社会）について考えようとしている。 ※学習指導要領の各学年の態度に関する目標を踏まえた具体的な姿	・（単元で取り上げる社会的事象）について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ・（①調べて分かる社会の内容）と〇〇を、（④どのような考え方をした）、（③考えて分かる社会の内容）を考え適切に表現している。	・（②どのような調べ方）をして、（単元で取り上げる社会的事象）について必要な情報を集め、読み取っている。 ・調べたことを（地図や図表、レポートなど）にまとめている。	・（①調べて分かる社会の内容）を理解している。 ・（③考えて分かる社会の内容）を理解している。

**エ 単元の構造は「問題解決的な学習」にしましょう。**

単元の目標の達成を目指した指導計画とは、児童が単元を通して考え、理解することができるような問題解決的な学習になっていることだと考えます。

本研究委員会では、その要素として、特に、「単元を貫く学習問題（単元を通して学習する問題）」と「学習計画」、「児童の主体的な追究活動（児童による問題解決）」が重要だと考えます。次の図2のような単元の学習過程を基にして、単元の構造を設定しましょう。



単元の構造は、まずは、図3のように次の5つの項目で構成しましょう。

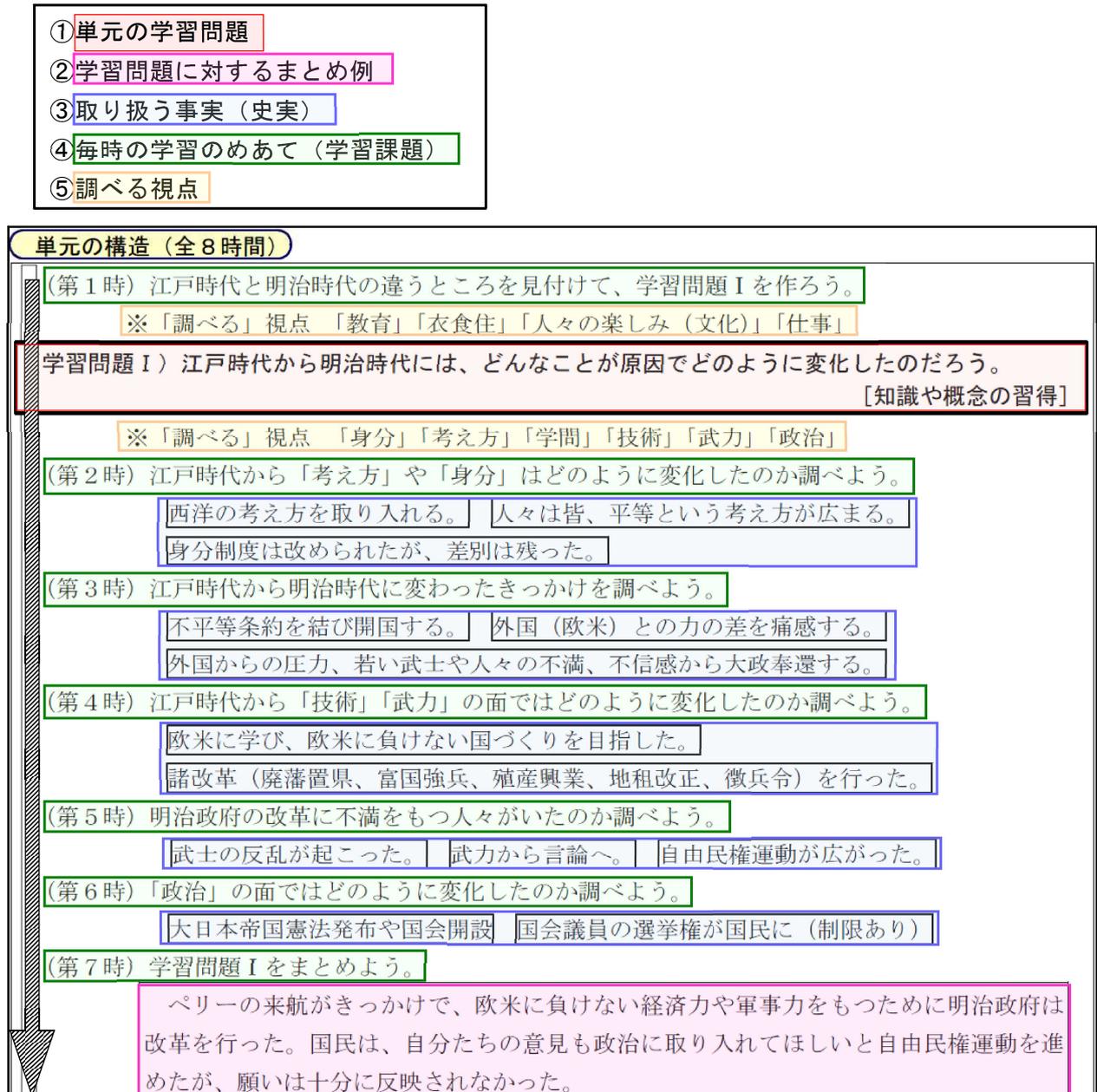


図3 単元の構造例（【実践事例5】の一部）

単元の構造を考える上で、単元の目標に向かう児童の思考の流れを想定することが重要です。児童の思考を予想しながら、①から⑤の順に考え、単元の構造を設定しましょう。児童の思考力・判断力・表現力を育成するためには、単元の構造を設定しながら、どこで、どのように考え、判断し、表現させるかをより具体的に考えましょう。

【実践事例1】から【実践事例6】では、授業改善の視点と取り入れた具体的な手立てとしてそれぞれ追記して示しています。

[実践事例一覧は、こちらをクリックしてください。（本研究のサイトマップにリンクしています。）](#)

## ② 児童の主体的な学びになるようにする。

児童に調べさせる活動や知識を身に付けさせることを重視するあまり、児童にとって受動的な学習になってしまったり、問題解決的な学習が形骸化していたりすることがあります。

本研究委員会では、問題解決的な学習を充実させるためには、児童の主体的な学びになるようにすることが大切だと考えます。そのためには、児童が単元の学習問題をつくり、常に学習問題を意識して振り返ることが重要になります。次の3つの視点から授業づくりをしましょう。

### ア 児童と共に単元の学習問題をつくる。

本研究委員会では、教師が単元の学習問題を一方的に示さず、児童と共につくることで児童の主体的な学びへと導くことができると考えます。

単元の学習問題は、児童にとって学習の目的（道しるべ）となります。児童が、「疑問を解いたり、予想を確かめるために調べ」「学習問題を解決するために調べて分かったことをまとめる」という学習の目的を明確にもっていることが大切です。そうすれば、学習問題が「何とかして解決したい問題」になると考えます。

児童の「なぜなんだろう」「どのようになっているんだろう」という疑問やもっと調べたいことを教師が意図的に引き出し、何とかして解決したいという問題意識を児童にもたせるような学習問題づくりをしていく必要があると考えます。

例えば、次のようなやり方が考えられます。

- ・児童が自分の生活から調べたことを基に、「なぜなんだろう」「どのようになっているんだろう」など社会的事象の意味や相互の関連などを問いかけ、説明を試みさせることで疑問や気付きを引き出す学習活動を仕組む。  
【実践事例1】【実践事例2】
- ・既習の知識を基に、これから学ぶ内容について予想させ、問題意識を醸成する学習活動を仕組む。  
【実践事例4】【実践事例5】
- ・児童の予想と社会的事象（事実）との感覚のずれを生じさせる学習活動を仕組む。  
【実践事例3】【実践事例6】

### イ 「つかむ」過程でも、児童の思考力・判断力・表現力を養う。

児童が学習の見通しをもつことと社会科における思考力・判断力・表現力とはどのような関係があるのでしょうか。学習問題づくりの中にも、児童が社会的な思考をする場があります。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」（平成23年11月国立教育政策研究所）<sup>(4)</sup>によると、社会科の特性に応じた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」及びその趣旨について以下のように示されています。

#### 社会的な思考・判断・表現

社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。

国立教育政策研究所 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」 平成23年11月 p. 23より引用  
※下線は、本研究委員会による。

児童に疑問をもたせたり、調べるべき内容や方法を決めさせたり、学習問題に対する予想を立てさせたりすることは、児童の主体的な学びへ導く大切な思考過程だと考えます。

### ウ 「考えて分かる社会の内容」は、児童に表現させる。

児童の主体的な学びにするためには、「考えさせたいこと」を「言わせたいこと」「書かせたいこと」と捉え、考えるように促し、考えたことを表現させる手立てを考えていきましょう。

「調べて分かる社会の内容」は、児童にとっても表現しやすいものです。しかし、「考えて分かる社会の内容」は、児童が情報を比較したり、関連付けたり、総合したりして考えなければなりません。ともすれば、教師が説明してしまい、児童の考える場や機会を奪ってしまっていることもあります。次のような3つの思考方法を通して、児童に例のような表現をさせるようにしましょう。

#### 児童に求める思考方法

- ・いくつかの情報から分かったことを比べ、類似点や相違点などを考える（比較の思考）。  
児童の表現例「～よりも～」「同じところは～」「～が違う」
- ・いくつかの情報をつなげて予想したり、理由を考えたりする（関連付けの思考）。  
児童の表現例「～だから～」「なぜかという～」「それは～」「ということは～」
- ・いくつかの情報をまとめる（総合する思考）。  
児童の表現例「一言で言うと」「つまり～」「まとめると～」

### ③ 年間を通して、授業改善の基盤をつくるようにする。

教師の問いかけに対して特定の児童だけが応え、それを基に授業を進めていませんか。また、児童の発言に対して、常に他の全児童が「いいです」「いいと思います」などと応えることが慣例化し、児童の反応が形骸化していませんか。

本研究委員会では、授業改善策を継続、徹底させる観点から、年間を通して児童の思考力、判断力、表現力を育成する機会を、教師が常に意識しておくことが大切だと考えます。教師の問いかけに対する反応や児童の発言を聞いた際の反応、自分の考えを表現させる際の学習習慣は、授業改善の基盤として重要だと考えます。次の2つの視点から児童の学習習慣を見直しましょう。

#### ア 教師の問いかけや児童の発言に反応する学級集団をつくる。

児童の反応は、教師が学級全体の学習状況を把握する上で、重要なバロメーターになります。学級全体を見渡し、児童が「自分の考えで反応すること」を徹底しましょう。

児童に反応することを指導する際には、以下のような例が考えられます。

#### 徹底させたい児童の反応例

- ・態度（体で）反応する。…「うなずく」「首を傾げる」「拍手する」など
- ・声で反応する。…「なるほど」「あっ そうか」「えっ そうかな」
- ・自分の考えを発言する。…「同じです」「少し違います」「他にもあります」 など

※教師が意図する反応を褒め、意図していない反応を褒めないという態度をとってしまわないように、どの児童の反応にも同じ対応ができるように意識しましょう。また、児童同士の対話や話合いの中でも、同様の反応ができるように指導を徹底しましょう。

※反応する学級集団になっていると、学習の中での話合いの質が向上すると考えます。

## イ 主張と事実と理由付けを分けて表現させる。

社会科に限らず、日頃から分かりやすい言い方、文の書き方をさせておくと、学習の中での表現力が高まり、ひいては学習の質が高まります。本研究委員会がお勧めする分かりやすい言い方、文の書き方は、「主張（言いたいこと）」と「事実（根拠）」と「理由付け（主張と事実の結び付け）」を分けて考える方法です。

例えば、図1のように授業で自分の考えを書かせる際に、「私は、（自分の考え）だと思います。理由は○つあります。1つ目は、□□の資料で調べたら（事実）と書いてありました。ということは、（理由付け）だと思ったからです」などと表現方法を示す指導が考えられます。

また、授業以外でも日々の日記指導の際に、「今日は、『感想（言いたいこと）』な1日でした」「今日は、（事実）があった（だった）」「どうしてそう思ったかというと、（理由付け）だったからです。」の3文で書かせることも考えられます。

以上のことを意識して授業改善に取り組みましょう。取り入れたい授業改善の手立てを次項で紹介します。[次項\(3\) 授業に取り入れたい改善策へは、こちらをクリック（新しいPDFが開きます。）](#)

☆討論の時にそのまま意見を発表できるように、「意見の述べ方」に合わせて発表する内容を準備しておきましょう。書く内容は、「農業をする人を増やす」ことについてのメリットとデメリットや解決策チェックシート、教科書、資料集、配布された資料を参考にしましょう。

数 115ページ 5

① 調べたこと（事実・データ）  
 スを増やしても田畑の面積かへ、  
 ているから、いみか  
 事実（根拠）

② 自分の考え（理由付け（主張と事実の結び付け））  
 スだけを増やしても、田畑が少  
 なら、たら作物がふえな  
 思う

③ 結論  
 だから田畑の面積を増やさない  
 といけないと思う  
 主張（言いたいこと）

反対

図4 分かりやすい表現方法を示したワークシート例（【実践事例3】より）

## 引用文献

- (1) 佐賀県教育委員会 『平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告（社会科）』平成27年2月 pp.46-47  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic\\_attainments\\_analysis/H26\\_12\\_Webreport\\_center/documents/h26\\_12\\_shakai.pdf](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H26_12_Webreport_center/documents/h26_12_shakai.pdf)
- (2) 佐賀県教育委員会 『平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告（社会科）』平成28年2月 p.45  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic\\_attainments\\_analysis/H27\\_12\\_Webreport\\_center/documents/H27\\_12\\_shakai.pdf](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H27_12_Webreport_center/documents/H27_12_shakai.pdf)
- (3) 文部科学省 『小学校学習指導要領』平成20年3月 p.25
- (4) 国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校社会】』平成23年11月 p.23

## 参考資料

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』平成20年8月
- ・佐賀県教育センター 『新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校 社会科）』平成23年10月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/hyouka\\_jirei/pdf/02\\_syousya.pdf](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/hyouka_jirei/pdf/02_syousya.pdf)
- ・佐賀県教育センター 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』平成26年3月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/toppage.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm)
- ・澤井陽介 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』2015年 東洋館出版社
- ・澤井陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK』2015年 明治図書
- ・澤井陽介 『児童の思考をアクティブにする社会科の授業展開』2016年 東洋館出版社
- ・澤井陽介 『学級経営は問いが9割』2016年 東洋館出版社